

| | | | | | |
|-----|------|------------|---------|------|----------------|
| 科目名 | 家庭総合 | 学年 | 3年(工業科) | 使用教材 | 【教科書】家庭総合 東京書籍 |
| | | 必修・選必・コース選 | | | 【副教材】 |
| | | 単位数 | 2単位 | | |

学習目標（食物・消費生活分野）

食生活、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭科目目標生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

学習方法

- 実践的・体験的な学習活動を通して、食生活、消費生活を科学的・総合的にとらえていく。
- 自分の生活から課題を見つけ、生活をよりよくするための工夫を考え、実践できるようにする。

学習評価

○次の4つ観点に基づき、学年末に5段階の評定に総括する。

| | |
|-----------|--|
| ①関心・意欲・態度 | ○食生活の科学と文化、消費生活などに関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。 |
| ②思考・判断 | ○食生活の科学と文化、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 |
| ③技能・表現 | ○食生活の科学と文化、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。 |
| ④知識・理解 | ○食生活の科学と文化、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。 |

3年家庭総合（食・住・家庭の経済・消費領域） 学習プログラム（年間学習計画）

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい | 学習活動 【評価方法】 |
|---------|--|---|--|
| 1 学期 | <p>0 家庭総合を学習するにあたって （食領域）</p> <p>①食生活について考える</p> <p>（1）高校生の食生活</p> <p>（2）「食べる」とは</p> <p>（3）食生活の課題</p> <p>（4）食生活の変化</p> <p>②食事と栄養・食品</p> <p>（1）生涯の健康と食生活</p> <p>（2）栄養と栄養素</p> <p>（3）炭水化物</p> <p>（4）脂質</p> <p>（5）たんぱく質</p> <p>（6）無機質</p> <p>（7）ビタミン</p> <p>（8）その他の食品</p> | <p>・炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンの栄養的特徴について理解する。</p> <p>・健康の維持・増進、からだの成長のために、自分や家族に必要な栄養所要量と食品群別摂取量のめやすについて理解する。</p> <p>・1～4群の具体的な食品の栄養的特徴を理解すると共に、各食品の加工法・調理性を知り、適正な調理法を学ぶ。</p> | <p>・教科書、ワークシート、実験、実習を通して、栄養、食品、調理について学習する。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【考查】</p> |
| 2 学期 | <p>③食生活の安全と衛生</p> <p>（1）食品の選択と保存</p> <p>（2）食生活の衛生と安全</p> <p>④生涯の健康を見通した食事計画</p> <p>（1）調理法と味のバランス</p> <p>（2）食事の場面を考えた調理</p> <p>調理実習</p> <p>① 親子丼、すまし汁</p> <p>② ジューシー、ウサチー</p> <p>③ 麻婆豆腐、杏仁豆腐</p> <p>④ グラタン、コンソメジュリアン</p> <p>⑤ マドレーヌ</p> | <p>・品質表示の理解、食品の保存方法、食品の衛生と管理について理解する。</p> <p>・栄養・嗜好・味わい・予算・調理時間を考えて合理的に食事の計画と献立作成ができる。</p> <p>・食品の選択・計量・器具の扱い、及び調理の基本を習得する。</p> <p>・食事の配膳とマナーについて学ぶ。</p> <p>・卵の調理方法、出し汁の取り方について学ぶ</p> <p>・郷土料理を学ぶ</p> <p>・中華料理の基本、寒天の使い方を学ぶ</p> <p>・ホワイトソース、洋風スープについて学ぶ。</p> <p>・卵の調理性、ケーキの作り方について学ぶ。</p> <p>・食物の役割を認識し、自国、他国の食文化についての理解を深める。</p> | <p>・教科書、ワークシート、実験、実習を通して、栄養、食品、調理について学習する。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【考查】</p> |

| | | | |
|-------------|--|---|--|
| | <p>⑥食生活と文化</p> <p>(1) 日本の食生活</p> <p>(2) 世界の食生活</p> <p>⑦これからの食生活</p> <p>(1) 食料生産と食料問題</p> <p>(2) 食生活の安全</p> <p>(3) 環境負荷の少ない食生活</p> <p>(4) 食育の推進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日本型食生活の栄養バランスのよさを理解すると共に、郷土食についての理解・関心を深める。 ・現代の食生活に関わる問題点について考える。(不規則な食生活、適正な栄養摂取、食料自給率など) ・現代の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解し、実践できる力を養う。 ・環境に負荷をかけない食生活上の工夫を身につける。 | |
| 3 学 期 | <p>(家庭の経済・消費領域)</p> <p>①職業生活を設計する</p> <p>(1) 経済的に自立する</p> <p>(2) 長期の職業計画</p> <p>②計画的に使う</p> <p>(1) 収入と支出を知る</p> <p>(2) 家計のマネジメント</p> <p>③国民経済・国際経済と家庭の経済生活</p> <p>④消費行動と意思決定</p> <p>⑤現代の消費社会</p> <p>(1) 契約と契約トラブル</p> <p>(2) 商品の販売方法</p> <p>(3) 多様化する支払い方法</p> <p>(4) 消費者をめぐる問題</p> <p>⑥消費者の権利と責任</p> <p>⑦これからの消費生活と環境</p> <p>(1) 消費生活と環境問題</p> <p>(2) 持続可能な社会を目指して</p> <p>(3) 消費者としてできること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社会の経済と家庭の経済の関わりを理解し、正確な知識や情報を収集することにより、主体的に行動できる態度を身につける。 ・家計の構造を知り、家計の管理について理解する。 ・家計管理の必要性を理解し、経済生活の設計ができるようにする。 ・経済の発展と共に流通システムが発展してきたことを理解する。 ・消費者の権利の保障と自己責任について理解し、消費者保護のための法律や関係機関について理解する。 ・消費行動の義務と責任について理解する。 ・契約、消費者信用について理解し、適切に対応できる判断力をつけることができる。 ・契約にたいする責任を自覚し、トラブルにあわない対策について学ぶ。 ・消費行動と環境問題の関連について考えることができる。 ・循環型社会の実現のために消費行動について考え、環境に調和したライフスタイルの確立を図ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ワークシートを通して、消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源環境について学習する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【考査】 【レポート】 |